

個人防護具に関する相談

相談 1 : マスクの使用方法について

(相談内容)

インフルエンザの流行期になると、常にマスクをしている病院があります。流行期には常にマスクをするべきでしょうか。正しいマスクの使い方を教えてください。

(回答)

流行期のマスク装着が常に必要かどうかについての明解はありませんので、各施設の状況によって対応やルールを決めることが必要と思われます。

季節性インフルエンザの感染経路は、発症者の飛沫（咳やくしゃみ）による飛沫感染と飛沫で汚染された手指や環境による接触感染です。

咳やくしゃみがある人（患者）が、「咳エチケット」を実施することが極めて重要で、標準予防策として位置付けられています。また、インフルエンザと診断された患者は、隔離と飛沫予防策（患者に1～2m近づく時はサージカルマスクの着用）等の対策を行います。飛沫予防策として、患者に1～2m近づく時はサージカルマスクを着用する、患者は個室に収容する、等の対策を行います。

今回の相談の件ですが、インフルエンザ流行期に、職員が常時マスクを着用することに関するエビデンスやガイドラインはなく、推奨も禁止もされていないのが現状です。

職員が常時マスクを着用しても、適切にマスクを交換し着用しなければ、マスクの汚染した部位に触れる度に手指が汚染し、むしろ感染を拡大させる原因になりかねません。

一方で、インフルエンザ流行期に外来や見舞客などすべての人の症状を確認し、「咳エチケット」を徹底することは困難でありますし、インフルエンザの特徴として、潜伏期（症状の出る1日前）から感染力があるため、職員患者双方を守るために常にマスクを着用すべきという考えも否定はできません。

したがって、インフルエンザ患者の対応をする機会の多い施設や部署によっては、職員が「患者から感染しない」ためと「罹患に気づかず患者に感染させない」ために、一定のルールを決めてマスクを装着している施設があるのが現状です。

流行期のマスク装着が常に必要かどうかについての明解はありませんので、各施設の状況によって対応やルールを決めることが必要と思われます。

インフルエンザ対策で重要なことは、マスク着用だけでなく予防接種や手指衛生の遵守も合わせて行うことであることを補足させていただきます。

参考文献：隔離予防のための CDC ガイドライン 2007

インフェクションコントロール 2013 年秋季増刊号